

## 商談会に参加してツアー客を受け入れましょう！

澤 功（澤の屋旅館主人） ※この記事は日観連機関誌の2008年新年号に掲載されました。

私が初めて商談会に参加したのは、平成8年4月に幕張メッセで開催された「旅フェア96」の会場でした。旅フェアは日本観光協会が中心となった旅フェア実行委員会が主催するものです。この年からインバウンド促進策として国際観光振興会（現・国際観光振興機構）が招請する海外の旅行業者との商談会が開催されることになったのです。

当時、私はジャパニーズ・イン・グループに所属し、この時七社の海外エージェントと商談してグループを売り込みました。ちなみにこの時招請された海外のエージェントは約70社、参加した日本側企業は約三十社でした。グループとしては平成9年の大阪での「旅フェア97」、平成10年の幕張での「旅フェア98」と立て続けに参加しました。

その後私は、平成10年5月に独立した日観連東京支部の支部長になりました。当時支部の会員は約140軒で東京の全域に存在しています。形態は旅館とビジネスホテルが半々で、宿泊料もリーズナブルです。それを機に積極的に外国人を受け入れることにしました。

そこで今度は、私が東京支部として商談会に臨むことになりました。ところが旅フェアに出展することが参加の条件になっていたのも、私どもが会員になっている東京コンベンション・ビジターズ・ビューローに共同出展してもらい平成13年のビックサイト、平成15年の横浜での「旅フェア」の商談会に参加しました。

そんな時、今度は東京都が平成14年10月より、千客万来の世界都市を目指して訪都外客を倍増させるために「東京都シティセールス」を実施することになりました。地域を欧米に限定し、年2回海外で商談会を開催することになったのです。東京の外客受入の宿泊施設の団体として中心的役割を担うようになった東京支部は、これに毎回参加することになりました。

平成17年になると、今度は国内最大のインバウンド商談会として東京ビックサイトで「YOKOSO! JAPANトラベルマート」が開催されることになりました。これは国土交通省、日本旅行業協会、国際観光振興機構などで組織するトラベルマート実行委員会が実施するものです。東京支部は17年、18年と続けてこれに参加しました。

ところで平成19年の春の日観連理事会で、東京支部の齋藤理事から「東京支部は毎年商談会に参加しているが、本部としても参加してはどうか」という提案が出されました。さっそく正副会長会議で検討され、19年の「トラベルマート2007秋」に参加することが決定され、各支部にも参加を呼び掛

けました。その結果、本部と東京、首都圏、北陸の3支部でブースを並べ商談会に参加することになり、今度は、私は日観連本部として商談会に臨むことになりました。

ところで、これほど多くの商談会に出席した私ですが、私どもの澤の屋旅館には海外のエージェントからの送客は残念ながらほとんどありません。それは、私どもでは部屋数が少なく団体を受けられないことと、銀行の送金手数料が高く少額の送客コミッションが支払えないと言っていることが原因かと思われる。

ところが今回の商談会で、会員旅館に海外エージェントからツアーが送客されていることを知りました。首都圏支部のブースで箱根の三河屋旅館の榎本さんが、アメリカ留学から帰ってきたお嬢さんと一緒に商談されていましたが、三河屋さんでは10年ほど前から外国のお客さまを受け入れるようになったそうです。

インターネットで三河屋さんのホームページを見ると英語、中国語、韓国語でも表示されたEメールでの予約が受けられるようになっています。現在では宿泊客の約二割が外国のお客さまで、主には個人旅行のお客さまですが、海外のエージェントからツアーでの送客もあるそうです。この場合の宿泊料金の支払いは、海外エージェントが10%のコミッションを差し引いた金額を銀行の送金手数料を負担して送金してくれるそうです。こんな方法もあったのですね。

これから、積極的に商談会に参加して、海外のツアー客を受け入れようではありませんか。